

一般会計予算は

168億8千万円

歳入・歳出の概要

歳入では、市税をはじめ地方交付税や国庫支出金、県支出金など柱となる収入について、制度改正などに留意し見積もりを行いました。

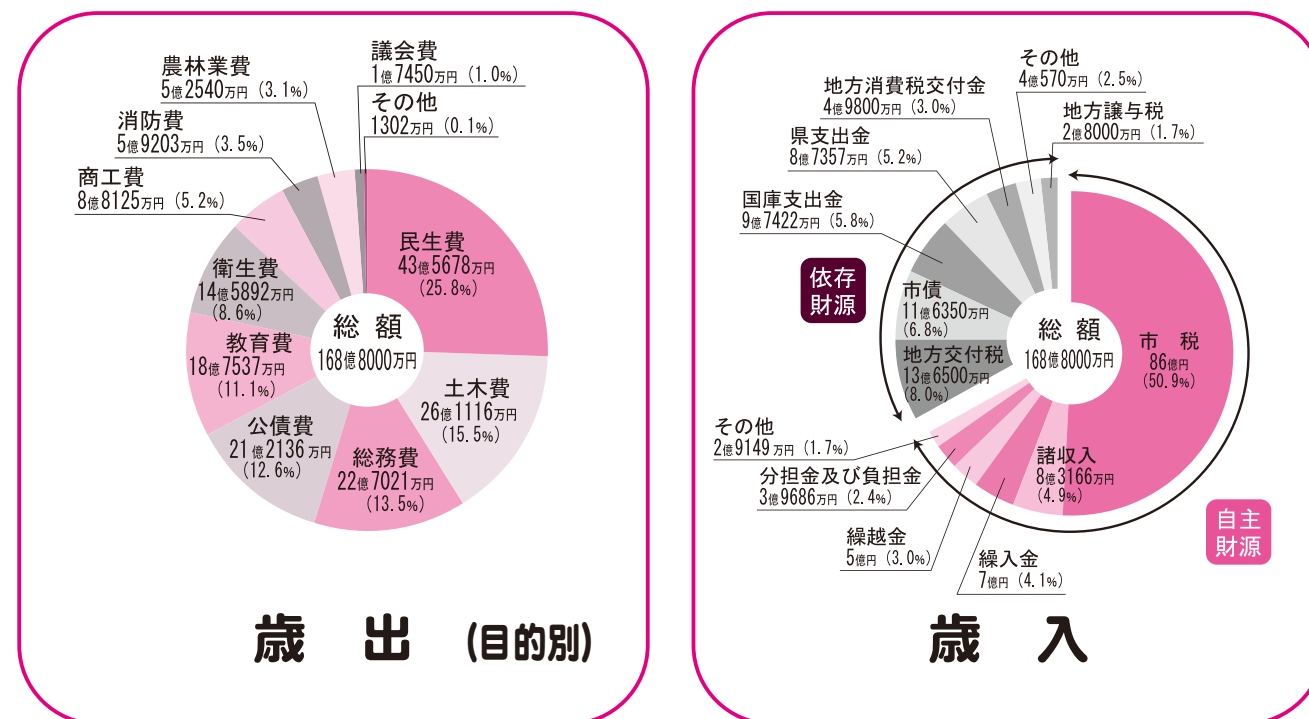
自主財源では、主となる市税で前年度比8.2%増の86億円を見込み、うち法人市民税は、企業収益の回復により前年度比35.9%増の13億2354万円を計上しました。

依存財源では、市税収入の増加に伴い、地方交付税が5億500万円の減額となり、市債は、前年度と比べ5億5080万円減の11億6350万円を計上するなど、前年度比5.5%減となりました。

歳出では、厳しい財政状況の中、歳出全般にわたる徹底した見直しや事業の重点化を進め、ソフト・ハード事業を織り交ぜながら、効果的な予算配分となるように配慮しました。

その結果、一般会計予算額は、前年度比0.8%減の168億8000万円となりました。

歳入と歳出（目的別）



選択と集中による重点配分！

少子高齢化社会においても自立した都市であり続け、今後も持続的に発展していくために今年度は、「選択と集中による重点施策に対応した予算の重点配分」に努め、教育、子育てなどを充実し、若年層をはじめ「だれもが住んでみたいまち美濃加茂」をつくるため、以下の3つのテーマによる特別枠事業を選定し、メリハリのある予算となるよう配慮しました。

- ①「未来を担う子どもの育成」 フロム0歳プランの事業推進や特別支援教育の充実など
- ②「子育て環境の整備」 中学3年生までの福祉医療費の助成の拡大など
- ③「都市間競争力のある自立都市」 まちづくり交付金事業の推進（駅北地区、中蜂屋地区など）



平成20年度予算について、歳入では、市税収入が税制改正の影響や一部の業績好調な企業にけん引され、増加が見込まれているものの、歳出では、少子高齢化対策をはじめ環境問題への対応、都市基盤の整備など取り組むべき課題が山積しており、これらの施策を進めるには多額の財源が必要となっています。

このような厳しい状況の中、限られた財源で「ひとにやさしいまち・だれもが住んでみたいまち美濃加茂」を実現するため、効果的な予算配分に努めました。

今回は、その予算のあらましについてお知らせします。

予算編成の基本方針

◆第4次総合計画の基本方針に沿った事業の更なる推進

- ・住んで誇れる「環境都市」のまちづくり
- ・時代を拓く「教育文化」のまちづくり
- ・安心安全に暮らせる「健康福祉・環境」のまちづくり
- ・交流のさかんな「産業経済」のまちづくり
- ・みんなでつくる「市民参加」のまちづくり

◆「ひとにやさしいまち・だれもが住んでみたいまち美濃加茂」を実現する施策の実施

- ・元気で活力に満ちた美濃加茂
- ・安心して快適な暮らしができる美濃加茂
- ・市民に便利、市民にオープン、市民が納得の市政

◆中期財政見通しに沿った健全財政の堅持

市債（借金）の新規借入額を元金返済額以下とし、市債の借入金残高が減少するように配慮

◆選択と集中によるメリハリのある予算

重点施策に対応した予算の重点配分